

知っていますか？ 母校校歌の作詞・作曲者



北原 白秋 . . . 高尾小

日本を代表する詩人・童謡作家・歌人、本名は北原隆吉。福岡県柳川市出身(実家は商家・酒造業)明治 37 年頃、地元の中学を退学し早稲田大学英文科予科に入学、上京後、同郷の若山牧水と親しく交わる。明治 39 年頃から与謝野晶子、石川啄木らと知り合う。中略、大正 7 年頃より小田原に転居し、優れた童謡作品を月次と発表した。昭和 11 年 2 月逝去。享年 57 歳。墓所は多磨霊園にある。

代表作 詩集・歌集(省略)

童謡 ゆりかごの歌、砂山、この道、ペチカ、待ちぼうけ、城ヶ島の雨 等校歌等は 40 作品程、山田耕作(作曲)との共作が多い。関西学院大学校歌、大正大学校歌、同志社大学校歌、駒沢大学校歌、高校・中学は 12 校程、小学校の校歌は地元の柳川市内の小学校や、川崎市立川崎小学校、港区立高輪台小学校、世田谷区立桜小学校、墨田区立業平小学校、新潟県内は高尾小学校の他、魚沼市立伊米ヶ崎小学校がある。

弘田 龍太郎 . . . 高尾小



高知県安芸市生まれ、明治 43 年東京音楽学校(現東京芸術大学)ピア

ノ科入学、文部省唱歌「鯉のぼり」は作者不詳とされていたが、弘田が在学中に作曲したものとされている。

北原白秋と組み、多くの童謡を作曲した。晩年は長女夫婦が創設した幼稚園の園長となり、放送講習会、リズム遊びの指導にあたる。60 歳で死去。

代表作 鯉のぼり、浜千鳥、叱られて、雨、雀の学校、春よこい、靴が鳴る、千曲川旅情の歌

※なぜ日本を代表する詩人・童謡作曲者が高尾小の校歌を? 由来は岡会長や高尾地区の方々から

小山 直嗣 こやま なおつぐ . . . 宇津小・原小・川上小・牧中・牧村民歌

1912 年、旧清里村生まれ、本名 直治、新聞記者を経て著述業、日本口承文芸学会、日本詩人連盟、日本音楽著作権協会会員。

上越市の作詩家、故小山直嗣氏は 100 校を数える校歌の作詞や、民話・伝説の採集で広く知られる人です。

松代中学校校歌、高田工業高校旧応援歌、赤倉音頭等も作詞しています。

小山氏の著書 新潟県伝説集成 上越編の中の牧村の部分には、宇津俣の「雪太郎」、柳島の「鶴巻田」、宇津の俣地区?の白峯山(しろふさん)の耳白(みみしろ)小人・・安塚町小黒の専敬寺(せんきょうじ)に弟子入りした凶暴な盗賊の話。旧小平村・旧神谷村の弘法清水の伝説が掲載されています。

